JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター
The Japan Center For Michigan Universities

No.39
2006 春

Director's Report

Jeffrey Johnson,
Director of Japan Center for Michigan Universities

Hikone has had record snowfall this winter. While our situation was not as dire as other parts of Japan, there was quite a bit of snow on the ground to greet this semester's students. It snowed quite a bit after the semester started, too. Of course in this part of Japan it is generally a bit too warm for snow to last any length of time, so the last few days have been warm enough to melt away most of the snow that still remained on the ground. Although it is too soon . . . it feels a little like spring.

地元の大学生とのハロウィン交流パーティ

Personnel changes in our JCMU office are almost an annual event, especially at this time of year, but this year we all regret the fact that a staff member will leave us shortly. She has been instrumental in the successes of the English program over the six years that she has been here and a pleasure to work with. While Boyce will miss her most, we will all miss her, and we all wish her the best in her life after JCMU.

2006 is an Olympic year and Japanese TV has already turned its attention to the Japanese Olympic athletes and is speculating on their fortunes in Turino, Italy. The Salt Lake City Olympics were four years ago already! The Nagano Olympics were eight years ago! I remember that the local press in Salt Lake came to ask me about the pronunciation of Nagano. They were criticizing each other for saying "Ne-GAA-no" or "NA-ge-no." I told them that in four years the Japanese press would have no compunction about saying "soruto-reiku-shitii." My Japanese students worked in the last two Olympics, but I doubt that any of my students are working in Turino unless they are making espresso at Starbucks.

In October we made a trip to East Lansing. MSU hosted a JCMU reception and students from 10 years ago came! One Saturday from the vantage point of the Presidential Box, we watched the Spartans get creamed by Northwestern. We also took the opportunity to make a few visits to campuses in the consortium. I hope that kind of contact with home campuses in Michigan can be a regular occurrence.

ディレクターズ・レポート

ジェフリー・ジョンソン
ミシガン州立大学連合日本センター所長

彦根はこの冬、記録的な大雪に見舞われています。当センターでの積雪は、日本の他の地域に比べればたいしたものではありませんが、地面に積もったたくさんの雪が、春学期の学生達の到着を出迎えました。今学期が始まってからも、たくさんの降雪がありましたが、もちろん、この地域は雪が地面に長く残るほど寒い地域ではなく、ここ数日の暖かい天候により、地面にあった雪はほとんど解けてなくなりました。ただ、春を感じるには、まだ少し早いようです。

特にこの季節、ＪＣＭＵのオフィスにおいては職員の異動が年中行事のようになっていますが、今回は、職員の一人が退職する予定で、私たち職員一同はたいへん残念に思っています。彼女は、６年間英語プログラムに従事し、その成功に貢献してきました。英語主任のボイス教官が最も寂しく感じることと思いますが、私たちもたいへん寂しく感じることでしょう。私たち一同は、彼女のこれからの人生がすばらしいものとなるよう願っています。

2006年は、オリンピックの年です。日本のテレビはすでに、日本のオリンピック選手に注目し、トリノでの活躍に期待を寄せています。前回のソルトレークシティ・オリンピックからは、もう４年が経ちました。長野オリンピックからは８年です！ 私は８年前、ソルトレークシティにいて、地元の記者から「長野」の発音について尋ねられました。彼らは、「ネガーノ」とか「ナゲノ」と言いながら、お互いに間違いを指摘し合っていました。私は彼らに、「４年経てば日本の報道陣が日本語訛りを気にせずに『ソルトレークシティ』と言うようになる」と話したことを覚えています。私には、この過去２回のオリンピックに従事した日本学の教え子がいますが、今回のトリノでは、スターバックスでエスプレッソをつくる者を除いて、オリンピックに従事する教え子はいないようです。

昨年10月、私たちはミシガン州立大学のあるイーストランシング市を訪問しました。そこでは、ミシガン州立大学によりＪＣＭＵのための歓迎会が開催され、この会には当センターの10年前の卒業生も参加していました。また、滞在中のある土曜日には、ミシガン州立大学アメリカンフットボールスタジアムの貴賓席に招かれ、同大学の「スパルタンズ」がノースウエスタン大学にひどく打ち負かされるのを見ました。これらに加え、私たちはミシガン州立大学連合を構成するいくつかの大学を訪問する機会を得ました。私は、このような州立大学連合構成校への訪問が、定期的に続けられるよう願っています。

特集 “異文化理解”ってどんなこと？

近年、私たちの日常生活においても、在住外国籍住民の方に出会う機会が増えており、「異文化理解」ということが身近な課題となってきています。今回は、この異文化理解にちなんだ当センターの公開講座および留学生の日本語発表について、ご紹介します。

公開講座

カレン・クレイグ
留学生サービスコーディネーター

12月2日に行われた第51回公開講座では、「異文化理解：よりよいコミュニケーションのために」をテーマに、当センターの留学生サービスコーディネーターであるカレン・クレイグ(右写真)が講演を行いました。当日は、約40名の方が参加してくださり、グループワークを交えた講演を楽しんでくださいました。この講演の中から、異文化理解について考える上でのキーフレーズを抜き出してみます。

◎異文化に対する理解力を高めるために大切なスキルとは・・・

＜判断を加えずに観察する力＞

善悪、正誤、正常・異常などの判断を加えずに、科学者のように、見たこと、聞いたことなどを、そのまま受けとめる力です。価値判断を少し待ってみることにより、この力はより高められます。

＜多様性を受け入れる力＞

社会の成り立ちには、様々な形態があることを認識できる力です。より丁寧に観察すれば、様々な課題についてより多くのことを学ぶことができます。

＜共感できる力＞

他の文化背景をもつ人の立場に立ってみることができる力です。これにより、物事を違った面から見ることができるようになります。

＜尊敬する力＞

自分とは別の考え方について、その弱さと強さを識別できる能力です。私たちの文化が、私たちの価値観や行動にどのような影響を与えているかを認識することも大切なことです。

◎異文化理解のゴールは・・・

相手との違いを理解し、その上で尊敬と寛容を持って接することです。他の文化の価値や信条を知ることで、人々の行動を予測することが可能となり、コミュニケーションの円滑化にも役立ちます。

◎文化とは氷山のようなもの？ それとも・・・

文化とは氷山のようなものと言われますが？
――表面に出てくるのはほんの一部で、見えない部分(文化的背景)が深遠で大きい…。

本当は海に浮かぶアイランド(島)のようなものでは？
――人間の心と心は、根底で繋がることができるのではないでしょうか！

日本語発表会

ＪＣＭＵで日本語や日本文化を学んでいる学生は、教室の中だけでなく、地域の方々との交流や様々な行事に積極的に参加しながら、充実した留学生活を送っています。放課後を利用して、華道やお琴、柔道といった日本文化に親しんでいる学生も数多くいます。今回は、12 月 10 日に行われた日本語発表会でのオースティン・ヒックスさんの作文をご紹介します。

題：生け花

華道家元池坊の中山先生とオースティンさん

先月、生け花を始めました。すごく楽しいと思います。生け花の歴史は興味深いです。生け花はとても日本的だと思います。初めて日本の花を見て、私はとてもきれいだと思いました。日本はアメリカにない花がたくさんあります。そして、生け花の教室があるから、私はそこで生け花の写真をたくさん撮りました。

いつも生け花の教室は楽しくて時間が長すぎることがありません。生け花をしている時、私はリラックスできます。生け花の教室で、日本語の花の名前をならって日本語を話します。でも、関西弁はぜんぜん使いません。そして、俗語もあまりつかいたくありません。先生は、やさしくてしずかな年配の女性です。私はいつも先生にクッキーをもらいます。そしていつも寮に花を持って帰りますから、私のへやはいつもいいにおいがします。時々持って帰った花をロビーに飾ります。

生け花は長い歴史があります。生け花は五百年ぐらい前からあります。お寺で生け花がはじまりました。お寺に住んでいる人が生け花をはじめました。今、日本には生け花の流派がたくさんあります。日本で一番有名なのは池坊です。サン･フランシスコにアメリカの生け花のクラブの本部があります。たぶんアメリカに帰ったとき、サン･フランシスコに行くつもりです。まだ日本のしか見ていませんし、生け花が好きですから、アメリカの生け花を見てみます。

日本で私がまだ見ていない花を見ました。日本の花はすごく美しいと思います。もっと生け花を習いたいです。

秋学期の修了式が去る 12 月 16 日に行われました。秋学期と春学期を継続受講するステイシー・プラットさんが、在校生を代表して日本語で送辞を述べましたのでご紹介します。

JCMU での経験について考える時、楽しくいい思い出がたくさんあります。例えば、学生は午前四時まで勉強することがとてもおもしろかったし、授業で敬語をたくさん暗記したり、私たちの意見を話したりしなくちゃいけませんでしたから、私の二年生の授業は一番すごかったです。でも、一年生と二年生と三年生の学生は、みんながんばることを習いましたから、そのことを決して忘れません。厳しい先生のおかげです。ありがとうございました。

JCMU Calendar

《春季英語プログラムごあんない》

開講期間 2006年4月12日(水)～7月4日(火)

英語集中コース

月～金　10:00～12:00　13:10～15:10

留学・進学・転就職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

※アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース

週1～2回　10:00～12:00　13:10～15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ライティング」、「アメリカ・オン・ビデオ」「総合英語」等の実力アップを図るためのコースがあります。

夜間コース

月・木　週２回　19:00～20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

●申込締切　2006年3月29日(水)

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター TEL0749−26−3400までお問い合わせください。

ホームページも、ご利用ください。
http://www.jcmu.net

《近江牛のこと》

昭和の時代、一般の家庭では、遠来の客を迎えたとき「すき焼き」で、もてなしました。幼い子どもたちは、客がくると、とても喜び、おおはしゃぎです。客といっしょなので、多少わるふざけをしても叱られないとわかっているから、はしゃぐのでしょう。

わが家でも、今でも、お客がみえても、正月休みやお盆休みで子どもたちが帰ってきたときも、一日は、「すき焼き」を囲みます。「すき焼き」の肉は、近江牛なら最高です。

牛肉は、わが国でも太古には、食用としていましたが　聖武天皇のころ、仏教が伝わって殺生が禁じられ、戦国時代に復活しました。甲賀出身のキリシタン大名、高山右近が、近江の国で初めて牛肉を食べたといわれ、小田原城征伐に前田利家の麾下として参加し、秀吉、家康等に肉をご馳走したという史実が残されています。

平安京の時代、百済から食肉牛が輸入され、但馬地方で肉牛の飼育が始まりました。

但馬の人たちは、種の保存に努め、素牛を、主に兵庫、京都、湖東に出荷、神戸牛、丹波牛、近江牛といわれるようになりました。お隣の松阪牛は、明治の始め、永源寺越えで松阪の地に入ってきた近江牛を飼育して名付けられました。

徳川幕府は、肉食を、キリスト教とともに禁止しましたが、彦根藩では元禄時代から牛肉を食べていたらしい、と聞きます。藩士が、牛肉を主とした「薬」を考えたのです。

毎年、彦根藩井伊家から将軍家と御三家へ養生品として、牛肉の味噌漬を献上していました。もっとも、後の彦根藩主井伊直弼は、殺生を禁じ、将軍家や御三家への献上をやめてしまいました。攘夷論の、烈公徳川斉昭は、牛肉が大好きで、直弼に献上の催促をしたそうです。直弼、「殺生は嫌いでござる」とそっけなく答えました。桜田門外の変は、これが原因であったとか、なかったとか。

先日、子どもたちと食べた「すき焼き」、牛肉は、究極の味と香り、芸術品といわれる近江牛でした。何とおいしかったこと、いくら食べても飽きることがありません。こんなにおいしいものを昔の人はなぜ食べなかったのでしょうか。

今、自由に食べられる幸せを噛み締めています。(真田傳強)

大津コースのごあんない

開講期間:2006年4月12日(水)～7月5日(水)

【大津マルチスキルコース】 新コース！
毎週水曜日 14:00～16:00

【大津夜間コース】毎週水曜日 19:00～20:30

場　　所:ピアザ淡海
(大津市におの浜一丁目〔びわ湖ホール東隣〕)

申込締切:2006年3月29日(水)

2006年　行事予定

3/24 金	第52回公開講座（英語プログラム体験レッスン）
4/ 8 土	日本語発表会（予定）
4/12 水	春季英語プログラム開講
4/15 土	日本語・日本文化プログラム / 英語プログラム（冬季）修了式

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもっており、日本の家庭で生活しながら、皆様とふれあう機会を求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力いただければ幸いです。

当センターまでの通学所要時間が1時間程度の範囲のご家庭であること、などの条件がございます。

詳しくは下記までお問い合わせください。

Snapshots

ハロウィーン・イベントでの
トリック・オア・トリートの様子

ミシガン州立大学連合日本センター

〒522-0002
滋賀県彦根市松原町網代口1435−86
TEL 0749−26−3400　FAX 0749−24−9356
http://www.jcmu.net

■編集・発行　(財)滋賀県国際協会 彦根事務所